2Jp-2

ダイ族の食事炊事の生活
ー西双版納ダイ族自治州での採取から　その2

○沖田富美子*　塩谷寿翁**（*日本女大、**大阪工業大）

目的：ダイ族の食事炊事生活のおこなわれかたのしくみとその展開のしかたを説明する。方法は前稿（その1）におなじである。

結果の要約：ダイ族の炊事調理は堂屋の炉のおかれる部分（タオファイ）と晒台（ザン）とでおこなわれる。タオファイでは火をあつかう炊事の過程の行為がおこなわれる。またザンでは水をあつかう炊事の過程の行為がおこなわれる。近年に炉は囲炉裏から竈にかわりつつある。これは漢族の影響をうけたもののようである。これにともなって炊事行為のおこなわれる場の変化はすすんでいる。もともと炊事の過程のおおくは、火をつかうもののほかは晒台でおこなわれていたのだが、米を研ぐ、野菜をあらう、食器類・調理具をあらうなどの炊事のはじめとあと処理の過程での水をつかう行為は晒台でおこない、ほかの行為は堂屋のタオファイの周辺にうつるようにじょじょにかわっているのである。これにともない竈は煮炊きだけにとどまらないおおくの炊事行為の場となっている。竈の導入は身体動作のしかたの変化に関係している。炊事行為にともなう身体動作のしかたは、囲炉裏の周辺でとられている身体を低くするものから身体を床面から高い位置におくものへとかわりつつある。

食事行為は堂屋のタオファイ寄りの位置でおこなわれる。これは堂屋がひろげられる展開によってもかわらない。一部の住居の堂屋では、近年に食事炊事の場となる部分を分節するような更新がおこなわれている。それは接客生活行為・休息およびくつろぎなどの行為の場となるナポン・ガンフンなどの部分と家族にとってもっともウチ向きとみられる行為の場とを分化しようとするものである。

ダイ族の住生活のおこなわれかたの変化は食事炊事生活からはじまっているようである。つづいてこれを行為・行為の場・ともなう身体動作の技法などにあらわれる行動のしかたから説明しようとおもう。